



SATOYAMA  
INITIATIVE

2016年度

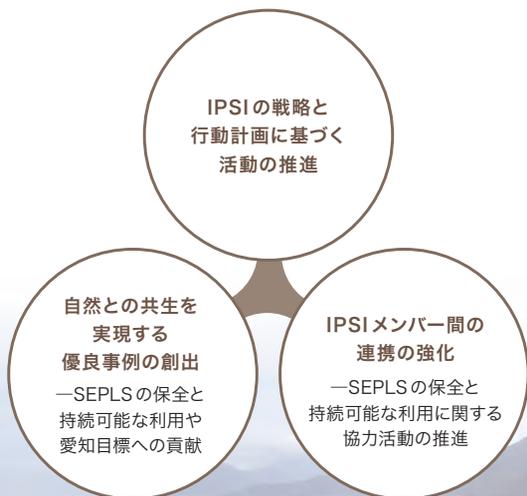
## SATOYAMA 保全支援 メカニズム (SDM)

### SATOYAMA 保全支援メカニズム (SDM) とは？

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議を契機に設立されたSATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、多くの協力団体とともに社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS: 日本では一般に里山里海と呼ばれています) の保全と持続可能な利用の推進に努めてきました。SATOYAMA 保全支援メカニズム (Satoyama Development Mechanism: SDM) は、IPSIメンバーによるこうした活動をさらに推進するため、2013年に地球環境戦略研究機関 (IGES)、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) および環境省により設立されました。

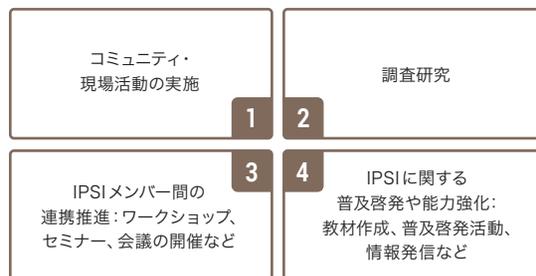
### SDMの目的

SDMは、IPSIメンバーによる応募の中から選ばれた、SEPLSの保全と持続可能な利用に関する優良事例となるような有望なプロジェクトに資金協力を行うことにより、IPSIの戦略と行動計画に基づく活動を推進することを目的としています。これにより、生物多様性条約の掲げる愛知目標の達成に向けて、SEPLSにおける生物多様性の保全や向上に貢献することをめざします。SDMによる支援の金額は大きくありませんが、他の資金源からの共同出資を推奨することにより、プロジェクトによるIPSIメンバーの間の連携強化やプロジェクト終了後の活動のさらなる発展を推進します。また、プロジェクトの成果はIPSIを通じて広く発信されています。



### 支援の対象

IPSIメンバーによる応募の中から選ばれたプロジェクトには、SEPLSの保全と持続可能な利用に関する活動の実施、モニタリングや情報発信などに必要な資金 (上限1万米ドル相当) が提供されます。IPSIの戦略と行動計画に沿った、下図の4種類の活動のいずれかに該当するプロジェクトで、特に他のIPSIメンバーの参考になる優良事例となるようなものが支援の対象になります。



### 2016年度採択プロジェクトの一覧

| 団体名   | プロジェクト名  | 国       | 活動の種類          |
|---|--|---------|----------------|
| COBEC (NGO)                                 | 利益分配と能力強化による生物多様性保全へのコミュニティ参加の強化   | ケニア     | コミュニティ・現場活動    |
| A Rocha Ghana (NGO)                         | マングローブ再生による社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープの改善: ムニ・ボマゼ湿地 (ラムサール条約登録湿地) の漁業資源回復に向けて             | ガーナ     | コミュニティ・現場活動    |
| 日本環境教育フォーラム (JEEF) (NGO)                    | バングラデシュ・スンダーバズにおける里山保全プロジェクト: 行動計画の策定、ならびにマングローブ再生、伝統文化とマングローブエビ漁等による自然資源の持続可能な利用の推進 | バングラデシュ | コミュニティ・現場活動    |
| M. S. Swaminathan Research Foundation (NGO) | 新たな利益の創出に向けた社会生態学的ランドスケープ・シースケープ変化の課題と展望: 西ガーツ地方の事例研究より                              | インド     | 調査研究           |
| 台湾国立東華大学 (研究機関)                             | SATOYAMAイニシアティブ台湾パートナーシップ (TPSI) 設立に向けた活動推進  | 台湾      | IPSIメンバー間の連携推進 |
| Landcare Germany (NGO)                      | 文化的ランドスケープ (景観) 保全のヨーロッパ地域展開に向けた準備   | ヨーロッパ地域 | IPSIメンバー間の連携推進 |



## 2016年度採択プロジェクトの概要

### 1 利益分配と能力強化による生物多様性保全へのコミュニティ参加の強化(ケニア)

COBEC

貧困や人口増加、教育や理解の不足などを背景に、近年ではウミガメの捕獲など、海の環境を損なう行為が後を絶ちません。さらに、自然資源管理に関する地域住民の能力不足、脆弱なガバナンスやマングローブの破壊等によって、マングローブから得られる資源の持続可能な利用の拡大やマングローブ生態系の改善が進んでいます。こうした課題の解決に向けて、主に次の3つの活動を実施します：

- 気候変動に適應するための地域コミュニティの能力とガバナンスの強化
- マングローブ林の再生と持続可能な利用
- ウミガメの保全



### 2 マングローブ再生による社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープの改善：ムニ・ボマゼ湿地(ラムサール条約登録湿地)の漁業資源回復に向けて(ガーナ)

A Rocha Ghana

ガーナでは漁業が国の経済開発に重要な役割を果たしています。エフツ地域はガーナ中部の漁業中心地の1つで、持続可能な漁業に向けてこれまで規制や取締の強化が進められてきました。このプロジェクトでは、地域コミュニティによる沿岸の生態系や漁業資源の持続可能な管理に向けて、普及啓発や劣化したマングローブの再生、保護区の設定などを行います。



### 1 カルパチア山地ポガニ・ハバシュ地域の文化的ランドスケープ保全に向けた共同保全活動の推進(ルーマニア)

Landcare Germany

ヨーロッパ地域の山岳・丘陵地域に広くみられる粗放的な採草地は生き物の宝庫として知られていますが、労働生産性が低いため近年では集約的な放牧地、畑地への転換や耕作放棄が進んでいます。このプロジェクトでは、粗放的採草地管理に関する国際ワークショップをルーマニアで開催し、域内各国からの経験や優良事例を共有しました。



### 2 フンソン上流域におけるSEPLSの持続可能性の確保：地域的に価値の高い樹種の樹林再生に向けた苗木育成、植林、現地モニタリングの実施(ベトナム)

SPERI

ベトナムのフンソン地区では、違法伐採や農地転換などにより、地域住民の生活や文化、生物多様性の基盤ともいえる自然林が急速に失われつつあります。このプロジェクトでは、在来種による樹林の再生と伝統的の継承に取り組みました。その結果、在来種の採種、育苗、植樹、モニタリングに関する地域住民の能力強化や生態系サービス保全などの成果が得られました。苗木は現在様々な住民活動の場として活用されています。



### 3 バングラデシュ・スンダーバンズにおける里山保全プロジェクト：行動計画の策定、ならびにマングローブ再生、伝統文化とマングローブエビ漁等による自然資源の持続可能な利用の推進(バングラデシュ)

日本環境教育フォーラム(JEEF)

スンダーバンズは世界自然遺産やラムサール湿地にも登録されている世界最大のマングローブ帯で、多くの絶滅危惧種が生息するだけでなく、320万人の人々の生活の糧を提供しています。しかし、地域住民や関係者の理解や参加が十分とはいえ、持続可能ではない利用などから劣化が進んでいます。このプロジェクトではスンダーバンズの持続可能な利用に向けて以下の活動を行います：

- 地域住民、行政、NGOの連携による2030年アクションプランの策定
- 地域住民参加のマングローブ植林と管理
- 伝統的知識を活かしたマングローブの持続可能な利用の優良技術の普及



### 4 新たな利益の創出に向けた社会生態学的ランドスケープ・シースケープ改善の課題と展望：西ガーツ地方の事例研究より(インド)

M. S. Swaminathan Research Foundation

西ガーツ地方の重要な社会生態学的ランドスケープにおける生物多様性の現状と傾向を評価する事例研究を行います。主に次の2つの活動に注力し、成果を出版物やビデオなどにより発信します。

- 新たな利益を創出するための社会生態学的ランドスケープ改善の課題や展望について理解を深める
- 生物多様性管理委員会(BMC)の社会生態学的ランドスケープの保全と管理における役割を分析する



### 5 SATOYAMA イニシアティブ台湾パートナーシップ(TPSI)設立に向けた活動推進(台湾)

台湾国立東華大学

2010年後半にSATOYAMAイニシアティブが台湾に紹介されて以来、政府や民間から大きな関心が寄せられ、社会生態学的ランドスケープ・シースケープの保全や再生の取組が進められています。このプロジェクトでは、台湾国内におけるSATOYAMAイニシアティブのさらなる推進のため、SATOYAMAイニシアティブ台湾パートナーシップ(TPSI)設立に向けた国家戦略枠組を策定します。



### 6 文化的ランドスケープ(景観)保全のヨーロッパ地域展開に向けた準備(ヨーロッパ地域)

Landcare Germany

EU共通農業政策(CAP)、水枠組やナチュラ2000などの地域政策が導入されて以来、異なる事情を抱える国々が地域共通の目標や義務にどう対応しているかが課題となっています。こうした中、ヨーロッパ各国で社会生態学的ランドスケープ・シースケープ管理に携わる団体が経験を共有し、EUの政策に共同で提案していくことが重要です。このプロジェクトでは、域内での優良事例を共有してEUの政策決定者などに情報提供する広域組織「ランドケア・ヨーロッパ」(Landcare Europe)設立のためのEU特別基金の獲得に向けて、IPSIメンバーを含む関係団体の協議と連携強化に取り組みます。



### 5 SATOYAMA イニシアティブ・ウガンダ全国ネットワーク・ワークショップ(ウガンダ)

EPIC

ウガンダ国内で社会生態学的ランドスケープ・シースケープに携わる団体が参加するワークショップを行い、SATOYAMAイニシアティブ・ウガンダ全国ネットワーク(SINN)を設立しました。これにより、国内の多くの団体にSATOYAMAイニシアティブの考え方や取組が共有されました。視察で訪問したビクトリア湖岸地域では地域住民の抱える問題が参加者に共有され、問題解決に向けてSATOYAMAイニシアティブの考え方を活用する可能性について意見交換が行われました。



### 6 文化的ランドスケープを活用した持続可能な地域開発(ロシア)

Environmental Education Centre Zapovedniks

ウラル地方のシュルガン・タシュ・ザポヴェドニクでは、地域の文化的景観(ランドスケープ)の保護管理における自然保護官、地元団体と地域住民の連携が課題となっています。このプロジェクトでは、ステークホルダー間の対話を促し、地域の文化的・社会生態学的生産ランドスケープの長期的な保全利用に向けた協力関係を構築するための取組を行いました。プロジェクトによって自然保護官、地域団体と地域コミュニティの能力と連携が強化され、この成果は自然公園管理への地域コミュニティ参加の優良事例として国内に広く共有されました。



## これまでの採択プロジェクトの 対象地域と活動内容の傾向

2013年のSDMの設立から2016年に至るまで、4回の公募により合計24件のプロジェクトが採択されました。2017年3月時点ではこのうち15件が完了し、9件が実施中です。右表に、計24件の採択プロジェクトを地域別、活動内容別に整理しました。

|                   | アジア太平洋地域 | アフリカ地域 | アメリカ地域 | ヨーロッパ地域 | 計  |
|-------------------|----------|--------|--------|---------|----|
| コミュニティ・現場活動       | 7        | 4      |        |         | 11 |
| 調査研究              | 2        | 1      | 1      |         | 4  |
| IPSIメンバー間の連携推進    | 1        | 1      | 2      | 2       | 6  |
| IPSIに関する普及啓発や能力強化 | 1        |        |        | 2       | 3  |
| 計                 | 11       | 6      | 3      | 4       | 24 |

## 完了プロジェクトからのメッセージ

- 社会生態学的ランドスケープ・シースケープに携わる実務家や行政担当者が状況の異なる様々な国から集う国際会議を開くことで、経験や課題を共有し、今後の取組に向けた協力への展望が開ける。  
(Landcare Germany・ルーマニア)
- 地域コミュニティとの緊密な関係をつくること、地域コミュニティのニーズを理解し対応すること、伝統知識や慣習を理解することがプロジェクト成功の鍵。活動の継続のためには若い世代の参加が重要である。  
(SPERI・ベトナム)
- 多くの国では不毛の地や荒廃地と呼ばれる土地は使えない不要な土地と捉えられているが、場合によっては少しの後押しで荒廃地を再生し、レジリエンスを回復することができる。  
(APAIC・ペルー)
- 農民に対して統合的病害虫管理等の優良農法のトレーニングを行うことにより、農地の生産性を高めると同時に農地拡大を抑制し、農業景観における生物多様性保全を推進することができる。この際に、伝統的な生物管理の知識を考慮すること、鎮守の森のような伝統を守ることが重要である。  
(Conservation Alliance International・ガーナ)
- SATOYAMAイニシアティブの概念を国内の多くの関係者に紹介するワークショップでは、SEPLSへの脅威や機会について地域コミュニティと意見交換する機会を設けることが1つの成功の秘訣である。  
(EPIC・ウガンダ)
- 普及啓発や能力強化の取組の成果を長期的かつ持続可能なものとしていくためには、保護区を管轄する政府機関と文化的景観を管理する他のステークホルダーとの連携を強化し維持していくこと、ならびに新たなスキルや知識を維持していくための国家予算を確保することが重要である。  
(Environmental Education Centre Zapovedniks・ロシア)



## 次回の公募予定

2018年の夏頃に第6回目のSDMプロジェクトの公募を予定しています。公募情報は、SDM事務局からIPSIのネットワークやSDMウェブページを通じて公表される予定です。SDMによる公募、選考や支援の手続きや基準などの詳細についてはSDMウェブページ(英文)\*をご覧ください。

\* Satoyama Development Mechanismで検索、またはブラウザに <http://www.iges.or.jp/en/natural-resource/bd/sdm.html> とご入力ください。

Satoyama Development Mechanism

検索

この出版物の内容はSDM事務局の一員としてIGESが作成したものです。

©2017 Institute for Global Environmental Strategies. All rights reserved. 平成29年7月発行

## 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11

TEL: 046-855-3700 FAX: 046-855-3709 Email: iges@iges.or.jp URL: <http://www.iges.or.jp>